

PRIMERGY RX4770 M1 ご使用上の留意・注意事項

PRIMERGY RX4770 M1 に関して、留意・注意事項およびマニュアル類の内容に訂正事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

1. BIOS1.23.0 以前での SAS アレイコントローラカードの Slot No の表記について

BIOS1.23.0 以前では、Slot11 に搭載される SAS アレイコントローラカードは、ServerView Operation Manager/iRMC4 Web インターフェース/ServerView Installation Manager/OS において、on board または slot0 で表示される場合があります。

2. BIOS1.12.0 以前での、OnBoard LAN の PXE 設定について

BIOS1.12.0 以前では、Onboard LAN は PXE 固定で動作します。

3. BIOS1.12.0 以前での、サーバ本体背面の上側 USB ポートの使用不可について

BIOS1.12.0 以前では、サーバ本体背面の上側 USB ポートはご使用できません。



4. BIOS1.10.0 以前での、POST 中の PCI カードの各種設定について

BIOS1.10.0 以前では、POST 中に PCI カードの各種設定を行う場合は、20 分以内に完了させてください。

20 分を超えると Watchdog により再起動される場合があります。その場合は再度設定を行ってください。

RAID 構築等で、RAID 初期化などの作業はバックグラウンド(BGI)で実施してください。

5. BIOS1.23.0 及び iRMC7.69F 以前での iRMC S4 Web インターフェースのリモートストレージでイメージマウントする場合の制限について

BIOS1.23.0 及び iRMC7.69F 以前では、iRMC S4 Web インターフェースのリモートストレージでイメージファイルをマウントする場合、NAS 経由の CIFS/SMB のメニューはご使用になれません。マウントする場合は、ローカルストレージにイメージファイルをダウンロードしてご使用ください。

6. ビデオリダイレクション(Advanced Video Redirection)ご使用時の注意事項について

(1) キーボード入力について

iRMC FW 7.38F をご使用の場合、iRMC S4 Web インターフェースのビデオリダイレクション(AVR)のご使用時に、キーボード入力ができない場合があります。AVR ウィンドウ内にあるメニューバーの「キーボード」メニュー - 「ソフトウェアキーボード」より、ご使用になる言語のソフトキーボード(仮想キーボード)を選択してご使用ください。

※iRMC FW7.68F 以降でこの問題が修正されています。

(2) Scroll Lock について

iRMC FW 7.38F 以降をご使用の場合、サーバ電源投入後、Video Redirection を起動すると Scroll Lock されます。解除する場合は Scroll Lock キーを押してください。

※iRMC FW7.68F 以降でこの問題が修正されています。

7. BIOS1.23.0 以前での SR-IOV 機能の制限について

BIOS1.23.0 以前では、この装置では、Single Root I/O Virtualization (PCI デバイス側で仮想化をサポートする機能)はご使用になれません。

8. BIOS1.12.0 以前での、iSCSI boot の制限(レガシーモード)について

BIOS1.12.0 以前では、iSCSI Boot はご使用になれません。起動時に POST 画面で『ERROR: No iSCSI Boot port available』のメッセージが表示されますが問題ありませんので、そのままご使用ください。

※UEFIモードについては 16 項をご参照ください。

9. iRMC ファームウェア 7.31F 以前での、Management LAN ポートを Shared で使用する場合の制限について

iRMC ファームウェア 7.31F 以前では、Management LAN ポートを Shared で使用する場合、IPv6 はご使用になれません。

10. ServerView Operations Manager の「ディスクパーティション」の表示について

ServerView Operations Manager 6.30.05 以前では、[システムステータス]-[ディスクパーティション]では、1 番目のパーティション情報のみ表示されます。2 番目以降のパーティション情報は表示されません。

確認する場合は、Server View RAID をご使用ください。

11. ServerView Update Management による BIOS およびファームウェアアップデートについて

ServerView Update Management による BIOS およびファームウェアのアップデートは未サポートです。BIOS およびファームウェアのアップデートについては下記の方法をご使用ください。

–「BIOS/ファームウェア」ホームページの手順によるアップデート

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/bios/>

12. システム起動時の制限

OS 起動デバイス以外の PCI カードおよびオンボードデバイスの Option ROM については、BIOS メニューから[Advanced]-[Option ROM configuration]を"Disable"にしてご使用してください。Disable にしない場合、"Expansion ROM slot 0 not initialized"のエラーが表示されます。

但し、SAS コントローラカード【PY*SC2Z0】および、SAS アレイコントローラカード【PY*SR2L2/PY*SR3FA/ PY*SR3C34/ PY*SR3C41/ PY*SR3C42/ PY*SR3PR2/PY*SR3PE】の BIOS メニューの「Advanced」-「Option ROM Configuration」-「Launch Slot x OpROM」に関してはすべて Enable にしてご使用ください。

13. BIOS1.23 以前でのテキストコンソールリダイレクションの使用不可について

BIOS1.23 以前では、テキストコンソールリダイレクション機能はご使用できません。コンソールリダイレクションをご使用の場合は、ビデオリダイレクション機能をご使用ください。

14. BIOS1.12.0 以前での SW4 (BIOS Write Protect)について

BIOS1.12.0 以前では、装置天板に貼られているシール及びアップグレード&メンテナンスマニュアルの Switch settings に SW4(ジャンパスイッチ 4) BIOS Write Protect が記載されておりますが、本機能は未サポートです。

15. UEFI モードについて

UEFI モードの設定方法や OS 及びオプションのサポート状況に関しては、下記リンクをご参照ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/products/note/>

16. BIOS メニューについて

(1) [Advanced]

[CPU Status]

[CPUx]

”Enabled”に設定してご使用ください。

[Onboard LAN configuration]

[Mezzanine LAN port1]および[Mezzanine LAN port2]

BIOS1.12.0 以前では、"Disabled" (デフォルト値)に設定してご使用ください。

[Memory Configuration]

[Memory Mode]

BIOS1.17.0 以前では、"Normal"(デフォルト値)のみ使用可です。

[DDR Performance]

BIOS1.12.0 以前では、"Energy optimized"はご使用になれません。

[VMSE Lockstep Mode]

BIOS1.17.0 以前では、"Independent"(デフォルト値)のみ使用可です。

[Memory Status]

各メモリの設定について"Enabled"(デフォルト値)に設定してご使用ください。

"Disabled"設定はご使用になれません。

[CPU Configuration]

[CPU P State Control]

[Enhanced SpeedStep]

BIOS1.32.0 以前では、E7-4809v2,E7-4820v2,E7-4830v2,E7-4850v2,
E7-4880v2 搭載時は、Disable でご利用ください。

Enable の場合、OS 起動時に EventID:35 が論理 CPU 数分

Windows Event Log にログされ、speed step 機能が正常に動作しませ
ん。

[Frequency Floor Override]

この機能はご使用になれません。

※BIOS1.20.0 以降では、本項目はありません。

(2) [Power]

[Wake-Up Resources]

[LAN]

iRMC7.84F 以前では、"Enabled"(デフォルト値)に設定してご使用ください。
"Disabled"設定はご使用になれません。OS 上で LAN ドライバの Wake on
LAN の設定を行わなければ、Wake On LAN は動作しませんので、問題ありま
せん。

[Wake On LAN boot]

BIOS1.20.0 以前では、"Boot Sequence"(デフォルト値)に設定してご使用く
ださい。"Force LAN Boot"設定はご使用になれません。

(3) [Server Mgmt]

「Load iRMC Default Values」

この機能はご使用になれません。

「Power Saving Mode」

BIOS1.30.0 以前では、"Disabled"(デフォルト値)に設定してご使用ください。
BIOS1.30.0 以前では、"Enabled"設定はご使用になれません。

(4) [Security]

[User password]

BIOS1.11.0 以前では、この機能はご使用になれません。

[Skip Password on WOL]

iRMC7.84F 以前では、この機能はご使用になれません。

(5) [Boot]

[Boot error handling]

BIOS1.12.0 以前では、"Pause and wait for key"はご使用になれません。

[Virus Warning]

この機能はご使用になれません。

※BIOS1.11.0 以降では、本項目はありません。

[CSM Configuration]

-BIOS1.20.0 以前では、[Boot option filter] は"UEFI and Legacy" (デフォルト値)に設

定

してご使用ください。"UEFI only"および" Legacy only"設定はご使用になれません。

※ [Boot option filter] を変更した場合、Boot Entry が一部、または全てが消去される
場合があります。

-ServerView Installation Manager を使用して uEFI モードでインストールを行う場合、
[Boot option filter] は"UEFI and Legacy" (デフォルト値)に設定してご使用ください。

(6) [Save & Exit]

[Boot Override]

BIOS1.20.0 以前では、ご使用になれません。

特定のデバイスから起動したい場合は POST 中に[F12]キーを押下し選択下さい。

起動デバイスの順序を変えたい場合は、BIOS メニュー[Boot]配下の Boot priority 設定
をご使用下さい。

17. BIOS1.11.0 以前での POST 中のメッセージについて

- (1) BIOS1.11.0 以前では、POST 時に『Legacy PCI Target Abort Bus: 0 Device: 0x00 Function: 0x00』メッセージが表示される場合がありますが、動作に問題ありませんので、そのままご使用ください。
- (2) BIOS1.11.0 以前では、BIOS メニュー[Save & Exit]-[Restore Defaults]後の初回起動時、PCI SERR/ Surprise Down Error が発生します。起動後、PCI SERR/Surprise Down Error が表示されなければ、問題ありませんので、そのままご使用下さい。表示される場合は、通常の修理依頼を

行ってください。

18. サーバ起動時間について

本サーバは起動時に、構成により POST 画面が表示されるまで時間がかかります。BIOS1.12.0 以降では、POST 画面が表示されるまでの間は、Fujitsu ロゴが表示されます。

※サーバ電源投入後、Local Service Display に Self Test Code が表示されますので、POST の進行は確認可能です。POST の進行中、Self Test Code19 は長時間表示されます。

(参考:メモリ容量 768GB:約 9 分、メモリ容量 6TB+PCI カード:約 20~40 分 ※搭載される PCI カードの種類枚数により異なります。)

19. Linux システムにおけるモニタを接続している場合の解像度の表示について

Linux システムにおいて、モニタを接続している場合、Display の構成情報が“unknown”と表示されます。解像度の変更は OS 上で選択可能な範囲内で可能です。

20. 1.30.0 以前での iRMC S4 Web インターフェースにおける BIOS 設定のリストアについて

1.30.0 以前では、iRMC S4 Web インターフェースにおいて、BIOS 設定のリストアはご使用になれません。

21. 10G LAN を使用した場合の設定について

『OnBoard LAN に接続する場合は、10Gbase-T スイッチとの接続を推奨します。OnBoard LAN を使用して、10GBase-T 以外のスイッチを使用し 1Gbps または 100Mbps で接続した場合、スイッチによっては通信できない場合があります。また、オートネゴシエーションで 1Gbps 接続した場合、スイッチによっては稀に 100Mbps 接続される場合があります。その場合は、セミクロスケーブル(片端が T-568A で反対の片端が T-568B)をご使用ください。Management LAN に問題はありません。

22. ServerView Installation Manager を使用したインストールについて

ServerView Installation Manager の StartUp 画面の status backup media の中で、「No status backup」を選択できない場合があります。その場合は、USB メモリを接続ください。

23. iRMC7.40F 以前での Windows OS リブート時のログの時間のズレについて

iRMC7.40F 以前では、Windows OS を起動またはリブートする際、iRMC S4 Web インターフェースの「イベントログ」-「SEL の表示」の「内容」に表示されるログの時間が正しく表示されません。「発生日時」でご確認ください。

システムイベントログ(SEL)情報							
イベントログの状態: 105 Entries of 455 (リングSEL) 最新のエン트리: 2014年04月23日 10時16分05秒 クリア日時: 2014年04月22日 15時00分24秒							
ログのクリア				ログの保存			
システムイベントログ内容							
<input checked="" type="checkbox"/> 危険(Critical)を表示 <input checked="" type="checkbox"/> 重大(Major)を表示 <input checked="" type="checkbox"/> 軽度(Minor)を表示 <input checked="" type="checkbox"/> 情報(Info)を表示 <input type="checkbox"/> CSS対象のみ表示 <input type="checkbox"/> 問題解決手段の表示							
適用							
発生日時	重要度	エラーコード	発生元	内容	種別	CSS対象	
2014年04月23日 10時16分05秒	情報(Info)	370021	Microsoft	Operating system boot 23-Apr-2014 19:15:52	システムLED	No	
2014年04月23日 10時16分05秒	情報(Info)	370001	SMS	Boot from hard drive completed	システムLED	No	

24. BIOS1.11.0 以前での ServerView Installation Manager を使用したインストールについて

BIOS1.11.0 以前では、『SAS アレイコントローラカード【PY-SR2L2/PYBSR2L2】の使用時、内蔵 DVD を使用してインストールする場合は、以下のいずれかの手順で行ってください。手順が違った場合、OS のインストールに失敗しますので、失敗した場合はもう一度手順通りに行ってください。

- (1) 電源 ON 後、F12 キーを押下して Boot デバイスの選択画面が出てからメディアを挿入し、DVD を選択してください。
- (2) WebUI の Power Management の Power On/Off を選択し、「Boot Options」-「Boot Device Selecter」を「CDROM/DVD」に変更します。その後、「Power Control」の「Power On」を選択してください。

25. Battery のメッセージの表示について

iRMC7.40F 以前では、SEL に"Battery voltage 'BATT 3.0V' low warning % Volt"(※ % は電圧読み取り値) と誤表示される場合があります。この表示が現れた場合は、iRMC を 7.68F 以降にアップデートしてください。

それでも回復しない場合は、通常の修理依頼を行ってください。

26. BIOS1.12.0 以前での PCI Error のメッセージの表示について

BIOS1.12.0 以前では、PCI Slot1、及び Slot8 で PCI Error が発生した場合、SEL の Slot No. が BUS:Dev:Func で表示されますので、Bus No. でご確認ください。Device No. 及び Function No. は任意の値です。

Slot1 Bus: 32 Device: xx Function: xx (xx は任意の値)

Slot8 Bus: 208 Device: xx Function: xx (xx は任意の値)

27. BIOS1.9.0 以前から BIOS1.10.0 へ BIOS アップデート時のメッセージの表示について

BIOS1.9.0 以前から BIOS1.10.0 へ BIOS をアップデートする場合、iRMC S4 Web インターフェースの「イ

ベントログ」に"Chassis IDPROM: BIOS restore failed"が表示されますが、問題ありませんのでそのままご使用ください。

28. BIOS1.17.0 以前での iRMC ファームウェアのアップデートを行った場合の版数表示について

BIOS1.17.0 以前では、iRMC ファームウェアのアップデートを行った後、POST 及び BIOS セットアップユーティリティで SDR 版数が、0.00で表示される場合がありますが、問題ありませんのでそのままご使用ください。

SDR 版数は、iRMC S4 Web インターフェースの「iRMC S4」-「iRMC S4 情報」でご確認ください。

29. RHEL でのハイバネーションモード未サポートについて

RHEL では、ハイバネーションモード(S4)は未サポートです。

30. システムを起動またはリブートする際のメッセージの表示について

(1) BIOS1.12.0 以前では、システムを起動またはリブートする際、iRMC S4 Web インターフェースの「システムイベントログ」に下記のいずれかのメッセージが表示される場合がありますが、Fatal NMI のエラーが同時に表示されない場合は問題ありませんので、そのままご使用ください。

Legacy PCI SERR Slot:4

PCI: Surprise Down Error Status Slot:4

PCI: Surprise Down Error Status Bus: 64 Device: 0x02 Function: 0x02

Legacy PCI SERR Bus: 64 Device: 0x02 Function: 0x02

PCI: Surprise Down Error Status Bus: 64 Device: 0x02 Function: 0x00

Legacy PCI SERR Bus: 64 Device: 0x02 Function: 0x00

(2) システムを起動またはリブートする際、iRMC S4 Web インターフェースの「システムイベントログ」に『Chassis IDPROM: BIOS backup failed ERR』が表示される事がありますが、問題ありませんのでそのままご使用ください。

31. Windows 2012 及び RHEL6.4 の BIOS/iRMC ファームウェアのサポート版数について

Windows 2012 及び RHEL6.4 は BIOS1.11.0/iRMC 7.38F 以降サポート可能です。

32. OS 起動前の iRMC S4 Web インターフェースの『System component』でのメモリ容量の表示について

OS起動前に iRMC S4 Web インターフェースの『System component』でメモリ容量を確認した場合、メモリ容量が違って表示される場合があります。OS の起動後にご確認ください。

33. BIOS1.17.0 での PCI Slot3 に PCI Error が発生した場合の iRMC S4 Web インターフェースの「イベントログ」の表示について

BIOS1.17.0 で PCI Slot3 に PCI Error が発生した場合、iRMC S4 Web インターフェースの「イベントログ」

で、『Legacy PCI SERR Bus: 64 Device: 0x02 Function: 0x00』と表示されます。

34. BIOS1.20.0 以前での Windows イベント ログで表示される Event ID 16 のメッセージについて

BIOS1.20.0 以前では、Windows イベント ログに Event ID:16(致命的なハードウェア エラーが発生しました)が記録され、この時 Windows イベント ログに下記の 3 種類のバス:デバイス:機能の番号のいずれかが表示される場合がありますが、iRMC S4 Web インターフェースの「イベントログ」にハードウェアの障害がログされない場合は問題ありませんのでそのままご使用ください。

バス:デバイス:機能: 0x0 :0x0 :0x0

バス:デバイス:機能: 0x0 :0x3 :0x2

バス:デバイス:機能: 0x0 :0x1c:0x7

35. iRMC 7.40F 以前での iRMC の NTP (Network Time Protocol)設定について

iRMC 7.40F 以前では、iRMC に NTP (Network Time Protocol)設定で NTP サーバを指定しても正常に同期しません。

36. ネットワークカード / システムボード交換に伴う設定情報の再設定について

Windows Server 2008 R2 を御使用の場合、ネットワークカード、またはシステムボードの交換、待機系装置への切替え、他装置へのリストア等を行うと、ネットワークコントローラを新規追加部品と装置が認識するため、ネットワーク関連の設定情報(IP アドレス / Teaming 設定など)が初期化され、再設定が必要となります。

マイクロソフト社の以下の KB(Knowledge Base)を参照の上、事前に Hotfix を適用することで再設定を回避可能ですので、適用をお願い致します。

Windows Server 2008 R2: KB2344941 , KB976042 (SP1 適用時は、再度 Hotfix 適用が必要)

Windows Server 2008 R2(SP1): KB2550978 , KB976042

※ Hotfix 適用にあたっての注意事項

・Hotfix はマイクロソフト社のサポートページから入手してください。

2012 年 12 月時点では、以下の URL から検索可能です。

<http://support.microsoft.com/>

・Hotfix は、OS インストール時に搭載されていた部品情報を有効にするものです。

OS インストール後にシステムボード等を交換していた場合、OS インストール作業時の情報となります。

また、既にネットワーク関連の設定情報が初期化された場合も、Hotfix 適用により回復できる場合がありますので、この場合も適用をお願いします。

なお、Hotfix 適用によって回復しない場合は、ネットワーク関連情報の再設定が必要となります。この際、ハード変更前の LAN コントローラの情報が残っているため、変更前に使用していたネットワーク接続名を設定することができません。以前使用していたネットワーク接続名を使用する必要がある場合は、以下の作業後にネットワーク関連情報を再設定してください。

(1) デバイスマネージャを起動します。

コマンドプロンプトを開き、以下を実行してください。

```
set devmgr_show_nonpresent_devices=1
```

```
start devmgmt.msc
```

(2) 非表示デバイスを表示可能にします。

デバイス マネージャーで [表示] メニューの [非表示のデバイスの表示] をクリックしてください。

(3) コンピューターに接続されていない LAN コントローラを削除します。

色が薄く表示されている「ネットワークアダプタ」を削除してください。

37. コンバインド・ネットワーク・アダプタ【PY-CN302/PYBCN302】での iSCSI Boot について

コンバインド・ネットワーク・アダプタ【PY-CN302/PYBCN302】では、iSCSI Boot はご使用になれません。

38. RHEL においてクロックソースを TSC に設定した場合における reboot 時に時刻ずれについて

RHEL において、クロックソースを TSC に設定した場合、reboot 時に時刻ずれが発生する場合がありますので、RHEL 上で NTP Server と同期する設定してください。

39. RHEL における ServerView Operation Manager の Asset Mgmt 画面でのシステム情報取得について

RHEL において、ServerView Operation Manager の Asset Mgmt 画面でサーバのステータスが Once Immediately と表示され、システムの情報を取得できません。OS 上、または iRMC4 Web インターフェース上でご確認ください。

40. RHEL における起動時の RXErr について

RHEL において、ファイバーチャネルカード(16Gbps)【PY-FC311/PYBFC311】及び Dual port ファイバーチャネルカード(16Gbps)【PY-FC312/PYBFC312】搭載時、OS 上で lspc コマンドを使用すると RXErr が表示されますが、問題ありませんのでそのままご使用ください。

41. CLP コマンドの未サポートについて

ファイバーチャネルカード(16Gbps)【PY-FC311/PYBFC311】、Dual port ファイバーチャネルカード(16Gbps)【PY-FC312/PYBFC312】の CLP コマンドはサポートしていません。

42. 2.5 インチ PCIe SSD ご使用時の留意

- (1) 2.5 インチ PCIe SSD (PY-BS08PA / PY-BS16PA / PY-BS20PA)をご使用の場合、BIOS 1.30.0 以上 /iRMC 7.82F 以上を適用してください。
- (2) 2.5 インチ PCIe SSD (PY-BS08PA / PY-BS16PA / PY-BS20PA)を新規に取り付ける際は、システムのシャットダウンを行ってください。

43. Windows OS 上での PCI カードの搭載についての制限

Windows OS 上で、以下の PCI カードを Slot#2、#3、#4 すべてに搭載した際、認識しない場合があります。その場合には、Slot#2、#3、#4 に搭載された PCI カードを 1 枚以上、他の Slot に載せ替えてご使用ください。

同様に、Windows OS 上で、以下の PCI カードを Slot#8、#9、#10 すべてに搭載した際、認識しない場合があります。その場合には、Slot#8、#9、#10 に搭載された PCI カードを 1 枚以上、他の Slot に載せ替えてご使用ください。

・対象カード

ファイバーチャネルカード(8Gbps)【PY-FC211/PYBFC211/PY-FC212/PYBFC212】

Dual port LAN カード(10GBASE)【PY-LA242/PYBLA242】

SAS コントローラカード【PY-SC3FE/PYBSC3FE】

SAS アレイコントローラカード【PY-SR3PE/PYBSR3PE】

44. PCI カードからの Wake On LAN についての制限

PCI カードからの Wake On LAN は Dual port LAN カード(1000BASE-T)【PY*LA262】及び Quad port LAN カード(1000BASE-T)【PY*LA264】のみご使用頂けます。

45. ServerView Update Management による BIOS およびファームウェアアップデートについての制限

ServerView Update Management による BIOS およびファームウェアのアップデートは未サポートです。

BIOS およびファームウェアのアップデートについては下記の方法をご使用ください。

—「BIOS/ファームウェア」ホームページの手順によるアップデート

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/bios/>

46. CDN 機能についての制限

Onboard LAN と Dual port LAN 拡張ボード(10Gbps)【PYBLAD12B/PY-LAD12B】の CDN(Cosistent Device Naming)はご使用できません。RHEL ではカーネルパラメータを biosdevname=1 に設定しても動作しません。MAC アドレスからイーサネット番号を参照してください。

47. iRMC S4 Web インターフェースにおける LDAP Configuration についての制限

- (1) iRMC S4 Web インターフェースの[User Management]-[LDAP Configuration]で[Authorization

Type]を "Standard LDAP Groups with Authorization Settings on iRMC"に設定した場合、[LDAP Configuration]-[Email Configuration for LDAP User Group]で [Preferred Mail Server]での "Primary"や"Secondary"のメールサーバの固定はできません。"Automatic"でご使用ください。

(2) iRMC S4 Web インターフェースの[User Management]-[LDAP Configuration]-[Directory Service Access Configuration]の[User Login Search filter]はご使用できません。フィルタしたい場合は、ユーザごとにアクセス権限を設定してください。

48. Linux OS におけるモニタの解像度についての制限

Linux OS 上において、RHEL6 では[System]-[performance]-[display]は XGA/SVGA/VGA のみ、RHEL7 では SXGA/XGA/SVGA のみ設定可能です。UXGA は設定できません。

49. RHEL 上でのクロックについての留意

RHEL をご利用の場合、起動時にクロックソースのデフォルトは tsc ですが、HPET が使用される場合があります。

クロックソースとして HPET を使用した場合、tsc と比較し、時刻取得精度がナノ秒単位でわずかに低下する可能性があります。タイマーの値を連続して取得し続けるなどの特殊な処理がない限り影響はありません。

なお、クロックソースが HPET で起動した場合でも、再起動によって tsc に戻す事が可能です。

現在使用中のクロックソースを確認するには、以下のコマンドを使用してください。

```
cat /sys/devices/system/clocksource/clocksource0/current_clocksource
```

50. iRMC S4 Web インターフェースにおける SAS アレイコントローラカードの表示についての留意

iRMC S4 Web インターフェースの[RAID Information]-[Controller]-[(SAS アレイコントローラカード名)]の[Details]において、Driver version が"--NA--"と表示される場合があります。Driver version の確認が必要な場合は OS 上の ServerView RAID の Web インターフェースの Version 情報でご確認下さい。

51. iSCSI 起動時の留意

Legacy で OnboardLAN の Port#1 から iSCSI Boot をする際、"Expansion ROM slot 0 not initialized"が表示されますが、問題ありませんのでそのままご使用ください。

52. Windows Server 2008 R2 における ServerView RAID Manager での内蔵 2.5 インチ PCIe SSD の表示について

Windows Server 2008 R2 において、OS の再起動後 ServerView RAID Manager での内蔵 2.5 インチ PCIe SSD が Error で表示されます。[Server Manager]-[Disk Management]または[Server Manager]-[Device Manager]でご確認いただき、表示されていれば問題ありませんのでそのままご使用ください。

53. 冗長構成時の HDD の活性交換についての留意

冗長構成の HDD を活性交換する場合、交換後に、Global Error LED が点滅する場合があります。活性交換した後、Server View Agent を手動で再起動してください。再起動後、Global Error LED が点滅しない場合は問題ありませんので、そのままご使用ください。再起動後も Global Error LED が点滅する場合は通常の保守作業を行ってください。

54. iRMC S4 のご使用上の留意・注意事項に関する留意

その他、iRMC S4 に関するご使用上の留意・注意事項については、「iRMC S4(Integrated Remote Management Controller)ご使用上の留意・注意事項」をご確認ください。本留意・注意事項は下記リンクから、ご使用の機種を選択し、各サーバ本体の個別のマニュアルより参照いただけます。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/manual/>

55. コンバージド・ネットワーク・アダプタ(PY*CN302)をご使用時の制限

本製品で以下条件に当てはまる場合、本体装置の起動時にイベントビューアーの[Windows ログ] - [システム]に下記のエラーが記録されます。

- ① FCoE Personality でご使用の場合。且つ
- ② 10GBASE-SR SFP+が搭載されていない場合、あるいは Twinax ケーブルが接続されていない場合。且つ
- ③ ServerView Installation Manager 11.15.09 を使用して Windows Server® 2012 R2、か Windows Server® 2012、あるいは Windows Server® 2008 R2 のオペレーティングシステムをインストールされた場合。

イベントビューアーに記録されるエラー

ログの名前(M)	システム	ログの日付(D)	2015/xx/xx xx:xx:xx
ソース(S)	elxcna	タスクのカテゴリ(Y)	なし
イベント ID(E)	11	キーワード(K)	クラシック
レベル(L)	エラー	コンピューター(R)	yyyyyy
ユーザー(U)	N/A		

1) ServerView System Monitor からの、保守ランプ解除方法

ServerView System Monitor を起動し、下図の様に監視コンポーネントから対象のコンポーネントを確認し、リセット(赤枠)を押します。対象となる監視コンポーネントは下表の通りです。

監視コンポーネント(名称)	品名	型名
Emulex OCe14102	コンバージド・ネットワーク・アダプタ	PY*CN302

System Monitor FUJITSU

ホーム [設定] 識別灯 更新

ステータス

▼ ✖ 監視コンポーネント

ステータス	名称	場所
● OK	PRAID EP420i	Slot 1
● OK	Emulex OCe14102	Slot 3
● OK	Emulex OCe14102	Slot 3
● OK	Emulex OCI14102-LOM	onboard
● OK	Emulex OCI14102-LOM	onboard
● 危険	Emulex OCe14102	Slot 3
● 危険	Emulex OCe14102	Slot 3
● 危険	Emulex OCI14102-LOM	onboard
● 危険	Emulex OCI14102-LOM	onboard
● OK	Intel C610 PCH SATA Controller 1	onboard

リセット

2) iRMC S4 からの、保守ランプの解除方法

iRMC S4 の[システム情報] - [ドライバモニタ]画面から、監視コンポーネントから対象のコンポーネントを確認し、ステータスのリセット(赤枠)を押します。

ServerView

PRIMERGY RX2530 M1 FUJITSU ServerView® iRMC S4 Web Server

RX2530 M1 39

- システム情報
 - システムの概要
 - システムの構成情報
 - MS Connect
 - システムレポート
 - ネットワーク一覧
 - ドライバモニタ
- RAD 情報
- BIOS
- iRMC S4
- 電源制御
- 電力制御
- センサ
- イベントログ
- サーバ管理情報
- ネットワーク設定
- 通知情報設定
- ユーザ管理
- コンソールリダイレクション
 - BIOS テキストコンソール
 - ビデオリダイレクション
 - ビデオリダイレクション (JWS)
- バーチャルメディア

Third Party Licenses

ドライバモニタステータス

Status: ✖ エラー

監視コンポーネント

ステータス	名称	場所
● OK	PRAD EP420i	Slot 1
● OK	Emulex OCe14102	Slot 3
● OK	Emulex OCe14102	Slot 3
● OK	Emulex OCI14102-LOM	onboard
● OK	Emulex OCI14102-LOM	onboard
● エラー	Emulex OCe14102	Slot 3
● エラー	Emulex OCe14102	Slot 3
● エラー	Emulex OCI14102-LOM	onboard
● エラー	Emulex OCI14102-LOM	onboard
● OK	Intel C610 PCH SATA Controller 1	onboard

ステータスのリセット

下記 URL より「コンバージド・ネットワーク・アダプタ Windows ドライバ v10.2.405.32」をダウンロードし、適用する事で本エラーを回避する事が可能です。

<http://azby.fmworld.net/app/customer/driversearch/ia/drviadownload?driverNumber=F1019406>

56. SAS コントローラカード【PY-SC2Z0/PYBSC2Z0】に何も接続されていない場合のデバイス表示について

SAS コントローラカード【PY-SC2Z0/PYBSC2Z0】に何も接続されていない場合、ServerView Operation Manager の "Mass storage" で間違ったデバイスが表示されます。SAS コントローラカード【PY-SC2Z0/PYBSC2Z0】を使用するデバイスに接続してください。

57. Secure Boot での iSCSI による SAN Boot について

Secure Boot を有効にした状態で、iSCSI による SAN Boot はご使用になれません。

58. BIOS 1.31.0 以前での Uncorrectable Error について

BIOS 1.31.0 以前では、MSR 上の無効なアドレスを指摘して CPU IERR が発生した場合、iRMC S4 Web インターフェースに MEM1_DIMM-A1 の Uncorrectable Error が間違って記録されることがあります。

59. BIOS 1.31.0 以前での Watchdog のタイムアウトについて

BIOS 1.31.0 以前では、DIMM の Uncorrectable Error が検出された後、ASR の Retry Counter が 0 になるまで Watchdog のタイムアウトが繰り返し発生することがあります。

60. iRMC7.84F 以前での LCD の表示フィルタリングについて

iRMC7.84F 以前では、LCD の表示フィルタリングで非表示に設定にした種類の SEL メッセージが発生しても、LCD に時間のみ表示されたページが表示されます。

61. システムボード交換 / BIOS 1.27.0 以降へのアップデートに伴う NIC 情報の再設定について

Windows Server を御使用の場合、システムボードの交換または、BIOS 1.27.0 以降へのアップデート時に、ネットワークコントローラを新規追加部品と認識する場合があります、この場合ネットワーク関連の設定情報 (IP アドレス / Teaming 設定など) の再設定が必要になります。

この際、ハード変更前の LAN コントローラの情報が残っているため、変更前に使用していたネットワーク接続名 (IP アドレス等) を再設定することができません。以前使用していたネットワーク接続名を使用する必要がある場合は、以下の作業後にネットワーク関連情報を再設定してください。

(1) デバイスマネージャを起動します。

コマンドプロンプトを開き、以下を実行してください。

```
set devmgr_show_nonpresent_devices=1
```

```
start devmgmt.msc
```

(2) 非表示デバイスを表示可能にします。

デバイス マネージャーで [表示] メニューの [非表示のデバイスの表示] をクリックしてください。

(3) コンピューターに接続されていない LAN コントローラを削除します。

色が薄く表示されている「ネットワークアダプタ」を削除してください。

(1)～(3)作業終了後、再起動してください。再起動後、以下の【レジストリ削除】作業をお願いします。

(4) 【レジストリ削除】

※レジストリ操作になりますので、作業前にレジストリのバックアップを行ってください。

(4-1)ファイル名を指定して実行より"regedit"と入力し、実行します。

(4-2)レジストリエディタより下記レジストリキーを確認します。

HKEY_LOCAL_MACHINE

¥SYSTEM

¥CurrentControlSet

¥Control

¥Network

¥<GUID>

¥Connection

¥Name

(4-3)Name キーのデータ値が今まで使用していたネットワーク接続名であることを確認します。また、GUIDを確認します。

(4-4)手順(4-2)で確認した GUID が下記レジストリ配下に存在することを確認します。

・HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥Network

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥services¥Tcpip¥Parameters¥Adapters

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥services¥Tcpip¥Parameters¥Interfaces

(4-5)上記 GUID のレジストリキーを削除します。

(4-6) レジストリエディタを終了して頂き、OS 再起動後に情報が削除されているかご確認ください。

参考情報

Windows XP ベースのコンピューターに接続されていないデバイスがデバイス マネージャーに表示されない

<https://support.microsoft.com/ja-jp/kb/315539>

62. ファイバーチャネルカード(8Gbps)【PY*FC211】、Dual Port ファイバーチャネルカード(8Gbps)【PY*FC212】をご使用時の留意

ファームウェア版数が 3.29 未満の版数が適用されたファイバーチャネルカード(8Gbps)【PY*FC211】、または Dual Port ファイバーチャネルカード(8Gbps)【PY*FC212】を搭載し、かつサーバ本体の BIOS 版数が 1.31.0 以降の版数が適用された場合に、システム起動時に保守ランプが点滅し、システムイベントログ (SEL)に下記の重度(Major)のエラーログが記録されます。本メッセージに伴う、サーバ本体及びファイバー

チャンネルカードの動作に問題はありません。(iRMC 8.08F 以降の場合には Information として表示されます)
本エラーログの発生を回避するには、ファイバーチャンネルカードのファームウェア版数を 3.29 以降へアップデートしてください。最新版は下記ダウンロードページを確認してください。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/downloads/>

[記録されるエラーログ]

```
CLP command to device in PCI slot [PCI スロット#] failed. Command not supported
CLP command to device [デバイス名][デバイス ID] failed. Command not supported
```

※ ログは POST (Power-On Self-Test: 電源投入時自己診断) 中に複数記録されます。

63. Linux システム上での ServerView hdagt プロセスについて

Linux システムをインストールした場合、ServerView hdagt プロセスが起動しない場合があります。
その場合、ServerView Operations Manager で RAID カードの情報 (Mass Storage) が確認できません。
ServerView RAID でご確認ください。

64. Windows システム上の Device Manager 上での location の誤表示について

Windows システム上の Device Manager と ServerView Operations Manager では、2.5 インチ PCIe SSD 用スイッチカード【PY*PC301】及び内蔵 2.5 インチ PCIe SSD-800GB【PY*BS08PA】/内蔵 2.5 インチ PCIe SSD-1.6TB【PY*BS16PA】の location が正しく表示されません。実装位置については iRMC S4 Web インターフェースの Component Status でご確認ください。

65. マニュアルの訂正について

(1) 『FUJITSU サーバ PRIMERGY RX4770 M1 アップグレード&メンテナンスマニュアル』への訂正事項

訂正 11.4.3 終了手順

誤:

- 55 ページ の「サーバの電源への接続」

正:

- 55 ページ の「サーバの電源への接続」

i CPU 増設後、サーバの電源投入時、画面上に "CPU has been changed" のエラーメッセージが表示され、保守ランプが点滅することがあります。

このメッセージは搭載 CPU の構成が変更されたことを示すもので、機能的な問題はありません。

保守ランプの点滅を消すためには、下記の手順に従ってください。

- システムを再起動した後、F2 キーを押して BIOS セットアップのメニュー画面に入ります。
- Save & Exit のメニューから [Save change and Exit] または [Save change and Reset] を選択します。
- 保守ランプが消えていることを確認します。

(2) 『はじめにお読みください』への訂正事項

訂正 各部名称と表示ランプ(関連ページ:2)

誤: ⑭ メモリエラー表示ランプ

正: ⑭ 保守ランプ

訂正 表示ランプの説明(関連ページ:2)

追加: ⑪ 電源表示ランプ

点滅* iRMC S4 が準備未完了の場合に、表示ランプはゆっくりと点滅します(1/2 Hz)。

* iRMC-FW 7.3.xF 以降を搭載するシステムのみ

(3) 『FUJITSU Server PRIMERGY RX4770 M1 用 D3342 BIOS セットアップユーティリティ』への訂正事項

項

訂正 6.2 Console Redirection (CR)

Flow Control

削除: Mode

BIOS POST (Power-On-Self-Test)後に Console Redirection 機能を実行するかどうかを指定します。

Standard

POST 後に Console Redirection の実行を続行しません。

Enhanced

POST 後に Console Redirection の実行を続行します。

66. BIOS1.34.0 以前での BIOS メニュー画面での長時間(24 時間以上)放置の制限

BIOS1.34.0 以前では、BIOS メニューの画面で 24 時間以上放置しないでください。BIOS メニューで 24 時間以上放置した場合には、その状態から Esc キーで BIOS メニューを終了せずに、以下の手順を実施してください。

BIOS メニューの「Save & Exit」タブ から「Save Changes and Reset」または「Discard Changes and Reset」を「Yes」で選択し、一度 Reset してから OS 起動させてください。

上記手順を実施しない場合、OS が起動できなくなります。復旧するためには、BIOS を「Flash Memory Recovery Mode」によりアップデートする必要があります。BIOS の入手及び「Flash Memory Recovery Mode」については下記 URL を参照ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/bios/>

67. SAS アレイコントローラカード【PY*SR3PR2/PY*SR3PE】に関する留意

SAS アレイコントローラカード【PY*SR3PR2/PY*SR3PE】は iRMC S4 Web インターフェースの[System Information]-[RAID Information]-[Controller]では情報が表示されませんので、RAID Manager でご確認ください。

68. VMWare 及び RHEL での時刻ずれについての制限

VMWare 及び RHEL をご使用中に時刻ずれが発生する場合は、BIOS1.35.0 以降を適用していただき、BIOS メニューの「Advanced」 – 「CPU Configuration」- 「Power Technology」を”disabled”に変更してください。また、クロックソースとして HPET をご使用ください。

69. 内蔵 2.5 インチ PCIe SSD【PY*BS08PA, PY*BS16PA】ご使用に関する留意

内蔵 2.5 インチ PCIe SSD をご使用の場合、発熱によるスロットリングを回避するために、ファンが常時最大回転数で動作します。

70. 内蔵 2.5 インチ PCIe SSD の活性増設機能についての留意

内蔵 2.5 インチ PCIe SSD【PY*BS08PA, PY*BS16PA】の活性増設機能はご使用できませんので、装置を停止後に増設してください。

71. 2.5 インチ HDD/SSD 取り外し時の留意

2.5 インチ HDD / SSD を取り外す際に、下図の A の部分のフックがかかっているため抜けづらいことがあります。その際、HDD/SSD トレイへ無理に力を加えると、トレイが破損してしまうことがあります。



取り外しにくい場合は、上右図 B の方向に無理に力を加えるのではなく、下記の手順を参考に取り外してください。

<p>①タッチポイントを押して、ロックを解除します。 ②手前にリリースレバーを約 45°手前に倒します。</p>	<p>③リリースレバーの根元をつまみます。 ④トレイを軽く右方向へスライドしてから、サーバから引き抜きます。</p>

※ トレイをスライドしても引き抜けない場合は、一度 HDD/SSD を元の位置に戻して、手順①から再度実施してください。(HDD/SSD を元の位置に戻した際に、リビルドが自動実行された場合は、リビルドを停止してから、HDD/SSD を引き抜いてください。)

PRIMERGY RX4770 M1 ご使用上の留意・注意事項

PRIMERGY RX4770 M1 に関して、留意・注意事項およびマニュアル類の内容に訂正事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

1. BIOS1.23.0 以前での SAS アレイコントローラカードの Slot No の表記について
BIOS1.23.0 以前では、Slot11 に搭載される SAS アレイコントローラカードは、ServerView Operation Manager/iRMC4 Web インターフェース/ServerView Installation Manager/OS において、on board または slot0 で表示される場合があります。
2. BIOS1.12.0 以前での、OnBoard LAN の PXE 設定について
BIOS1.12.0 以前では、Onboard LAN は PXE 固定で動作します。
3. BIOS1.12.0 以前での、サーバ本体背面の上側 USB ポートの使用不可について
BIOS1.12.0 以前では、サーバ本体背面の上側 USB ポートはご使用できません。



4. BIOS1.10.0 以前での、POST 中の PCI カードの各種設定について
BIOS1.10.0 以前では、POST 中に PCI カードの各種設定を行う場合は、20 分以内に完了させてください。20 分を超えると Watchdog により再起動される場合があります。その場合は再度設定を行ってください。RAID 構築等で、RAID 初期化などの作業はバックグラウンド(BG)で実施してください。

1 / 23

72. RHEL7 における内

蔵 2.5 インチ PCIe SSD【PY*BS08PA, PY*BS16PA】ご使用に関する留意

RHEL7.0 では、内蔵 2.5 インチ PCIe SSD はご使用になれません。ご使用になる場合は、RHEL7.1 以降をご使用ください。

73. SAS アレイコントローラの外付けケーブルを接続時の留意

SAS アレイコントローラカード【PY*SR3PE】は爪がロックされるまでコネクタを挿入してください。ロックがされていない状態で使用すると、サーバ稼働中にケーブルが抜けてしまう可能性があります。また、着脱しづらい場合がございますので、ご注意ください。

74. Linux 製品 ご使用時の留意

PCI スロット 3~10 を使用するには論理 CPU 数を 9 個以上の構成にする必要があります。論理 CPU が 8 個以下の場合、利用できないインターフェース機能が発生する場合があります。

75. Red Hat Enterprise Linux7 ご使用時の留意

Red Hat Enterprise Linux 7 をご使用の場合、カーネルパラメータへ

「intel_idle.max_cstate=0 processor.max_cstate=0」を追加してください。追加せずに使用した場合、稀に予期せぬリブート等の現象が発生する場合があります。

76. 仮想 WWN ご使用時の留意

ファイバーチャネルカード(8Gbps/16Gbps)

【PY*FC311/PY*FC312/PY*FC211/PY*FC212/PY*FC201/PY*FC202/

PY*FC221/PY*FC222】/ コンバージド・ネットワーク・アダプタ【PY*CN302】/ Dual port LAN カード (10GBASE)【PY*LA3B2】を PCI Slot#2,#3,#6,#7 に搭載した場合は、仮想 WWN はご使用になれません。PCI Slot#2,#3,#6,#7 は reboot 時に PCI スロットに対して power off/on が実施されます。そのため、カードのメモリ上に保存しているデータ(FC/FCoE の仮想 WWN など)は保証されません。仮想 WWN をご使用の場合は、Slot#1,#5,#8,#9,#10 をご使用下さい。

77. 省電力動作モードを使用時の注意事項について

省電力動作モードを有効にしてご使用の場合、稀に CPU IERR, PSOD, Fatal NMI といったシステムダウンが発生することがあります。(ただし、ハードウェア故障や BIOS 版数が低い場合を除きます)

BIOS 設定の [Advanced]-[CPU Configuration]-[Power Technology] を "Custom" (初期設定値: Energy Efficient) にし、下記のように設定してご使用ください。

- ・ Enhanced SpeedStep : "Disabled" (初期設定値: Enabled)
- ・ Turbo Mode : "Disabled" (初期設定値: Enabled) ※
- ・ CPU C1E Support : "Disabled" (初期設定値: Enabled)
- ・ CPU C3 Report : "Disabled" (初期設定値: Disabled)
- ・ CPU C6 Report : "Disabled" (初期設定値: Enabled)
- ・ Package C State limit : "C0" (初期設定値: C6)

※ Enhanced Speedstep が "Disabled" のままだと Turbo Mode の設定が有効にならず、変更ができないため、以下の手順で変更してください。

- ・ いったん、Enhanced SpeedStep を "Enabled" に変更する(既に Enabled の場合は不要)
- ・ Turbo Mode を "Disabled" に変更する
- ・ Enhanced SpeedStep を "Disabled" に変更する

ご使用の OS が Linux の場合は、あわせてカーネルパラメータの追記が必要です。

Red Hat Enterprise Linux 6 の場合：

①/etc/grub.conf ファイルの kernel 行に" intel_idle.max_cstate=0"カーネルパラメータを追加します。

②システムを再起動し、設定を反映させてください。

Red Hat Enterprise Linux 7 の場合：

①/etc/default/grub の GRUB_CMDLINE_LINUX 行に
"intel_idle.max_cstate=0 processor.max_cstate=0"
を追記してください。

②以下コマンドを実行し設定値を反映

■BIOS モードの場合

```
# grub2-mkconfig -o /boot/grub2/grub.cfg
```

■UEFI モードの場合

```
# grub2-mkconfig -o /boot/efi/EFI/redhat/grub.cfg
```

※使用環境によって実行するコマンドに差があります

③システムを再起動し、設定を反映させてください。

SUSE Linux Enterprise Server 12 の場合：

①/etc/default/grub の GRUB_CMDLINE_LINUX 行に
"intel_idle.max_cstate=0 processor.max_cstate=0"
を追記してください。

②以下コマンドを実行し設定値を反映

BIOS モード/UEFI モード両方とも

```
# grub2-mkconfig -o /boot/grub2/grub.cfg
```

※使用環境によって実行するコマンドに差があります

③システムを再起動し、設定を反映させてください。

VMware ESXi をご利用のお客様への制限

- ・一部ネットワークカードの省電力モードについて

Energy Efficient Ethernet(省電力型イーサネット技術)機能を保有した下記型名の LAN カードにてドライバが当該機能を有効と設定していた場合に、接続先のスイッチの当該機能の有/無および有効/無効に関係なく、稀に、CPU IERR、PSOD、Fatal NMI といったシステムダウンが発生することがあります。

PY-LA262(型名:PYBLA262 含む)

PY-LA264(型名:PYBLA264 含む)

LAN ドライバの設定にて、Energy Efficient Ethernet(省電力型イーサネット技術)機能を無効化してください。

- ・ESXi 5.0/5.1/5.5/6.0U2 以前の場合

1)以下のコマンドを実行します。

```
#esxcli system module parameters set -m igb -p "EEE=<igb ポートに対する設定値>"
```

[設定値]

0: EEE 無効

1: EEE 有効

実行例)

```
#esxcli system module parameters set -m igb -p "EEE=0,0,0,0"(*4)
```

*4:コンマ(,)で区切ったリストは、「PCI バス番号」の小さいポートから順番に、省電力イーサネット機能を無効化するポート毎に指定します。今回の例は、PY-LA264(4 ポート)が 1 枚搭載されており、igb ポートが 4 つあることを前提にしているため、0(無効)を 4 つ指定しています。なお、「PCI バス番号」とは、esxcfg-nics -l の出力結果が以下の時、PCI 列直下の値(例:vmnic1 の場合:0000:03:00.00)です。

Name	PCI	Driver	----
vmnic1	0000:03:00.00	igb	----
vmnic2	0000:03:00.01	igb	----
vmnic3	0000:03:00.02	igb	----
vmnic4	0000:03:00.03	igb	----

今回の例では vmnic1 の PCI バス番号が一番若いため、最初の 0 が vmnic1 に対する設定であり、2 番目に若い vmnic2 に対する設定が 2 番目の 0 となります。

(補足)ESXi シェルの有効化手順および SSH 接続の許可手順は次のヴェイムウェア Knowledge Base を参照してください。

『VMware Knowledge Base 2004746』

<https://kb.vmware.com/kb/2004746>

2)システムを再起動します。

78. 時刻ズレについての留意

BIOS1.35.0/iRMC ファームウェア 8.64F 以前では、iRMC ファームウェアの再起動を起因としてシステムクロックのズレが発生する場合があります。BIOS1.36.0/iRMC ファームウェア 8.65F 以降でご使用ください。

以上

Copyright 2014-2019 FUJITSU LIMITED